

ESA製剤投与頻度が透析室スタッフのメンタルヘルスに 与える影響

長崎腎病院

○上谷しのぶ 植木秀一 北村志保 熊博和 内山浩子 山中真樹子
丸山祐子 原田孝司 船越哲

【背景】

エポエチン α (EPO) はダルベポエチン (DA) に比べ廉価である一方、最大週 3 回の投与が必要となり、業務が煩雑化することが考えられる。

【目的】

月 2 回製剤である DA から週 3 回投与の EPO 変更する前後でのスタッフのストレスを比較する。

【対象・方法】

病棟透析室スタッフ 20 名を対象に、職業性ストレス簡易調査票を用いて変更前後の変化を定量した。

【結果】

ESA 製剤変更前後のスタッフのストレスを比較した結果、仕事量 3.55→3.65、仕事の質 3.85→4.00 とスコアは高い傾向であったが、有意差は認められなかった。「準備作業の時間が削られる」、「注射薬剤の取り違えが不安」、などが聞かれたが管理可能であり、変更前後 3 ヶ月の注射・投薬に関する事故件数に差はなかった。月当たりの薬価での ESA 費は削減可能であった。

【考案】

病棟透析室スタッフにとって、週 3 回投与 ESA 製剤は月 2 回 DA 製剤に比べてストレスを増加させる要因とは言えず、経営上も有益である。